

町民アンケート結果概要

1. 町民アンケート概要

①アンケートの目的

令和 5 年度に策定する景観計画に反映することを目的とし、地域特性を踏まえた景観に関する現状認識や、地域の実情に即した計画課題を的確に把握抽出するため、アンケート調査を実施しました。

②アンケート方法

- 対象者 : 18 歳以上の町民 1,000 人 (無作為抽出)
- 調査方法 : 郵送による配布
- 実施期間 : 令和 4 年 10 月中旬～11 月 30 日
- 回答数 : 332 人

2. アンケート結果の概要

○添田町の景観の現況に対する評価 (問 2)

添田町全体の景観に対して、回答者の約 8 割が、「添田町には自慢できる景観がある」と回答しています。

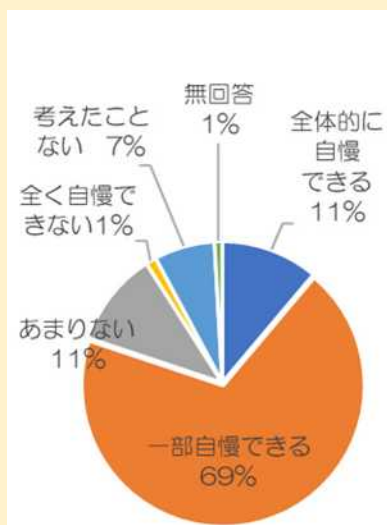
○町民が「良い」と感じている添田町の景観 (問 3)

季節感が感じられる自然や英彦山など山々の風景、山からの眺望といった、自然環境に関する景観が高く評価されています。

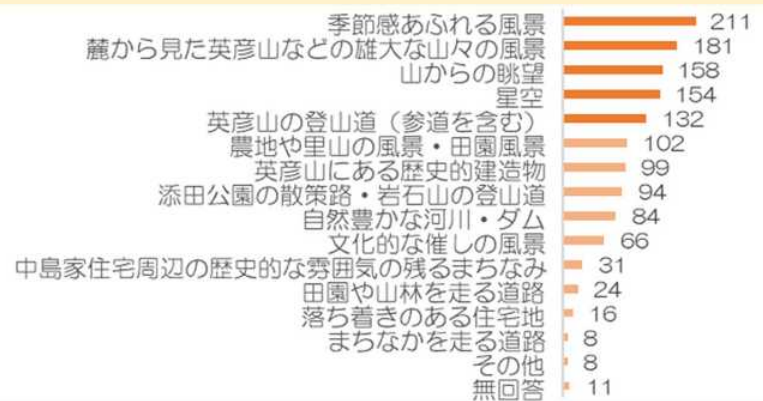
○町民が「悪い」と感じている添田町の景観 (問 5)

空き家・空き店舗・空き地や、活気が感じられない老朽化したまちなみ、耕作放棄地や獣害対策の鉄線、管理が行き届いていない道路や公園、土砂が目立つ造成地やソーラーパネルといった景観が「悪い」と評価されています。

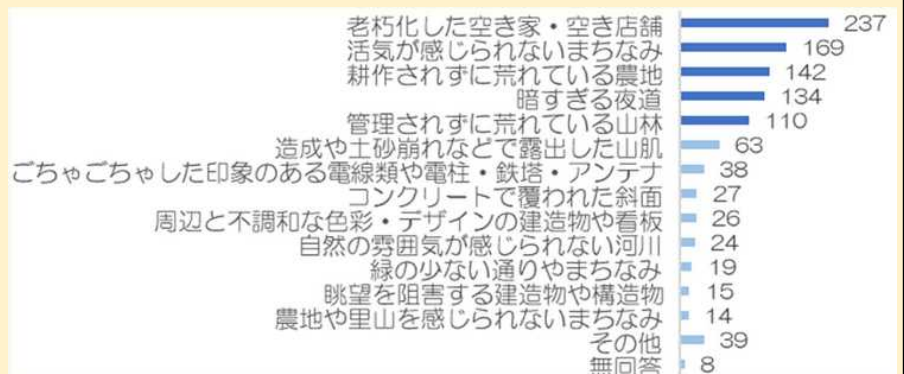
問 2 添田町全域の景観についてどのように思いますか。(問 2-1)



問 3 あなたが「良い」と感じている添田町の景観はどのようなものですか？



問 5 あなたが「悪い」と感じている添田町の景観はどのようなものですか？

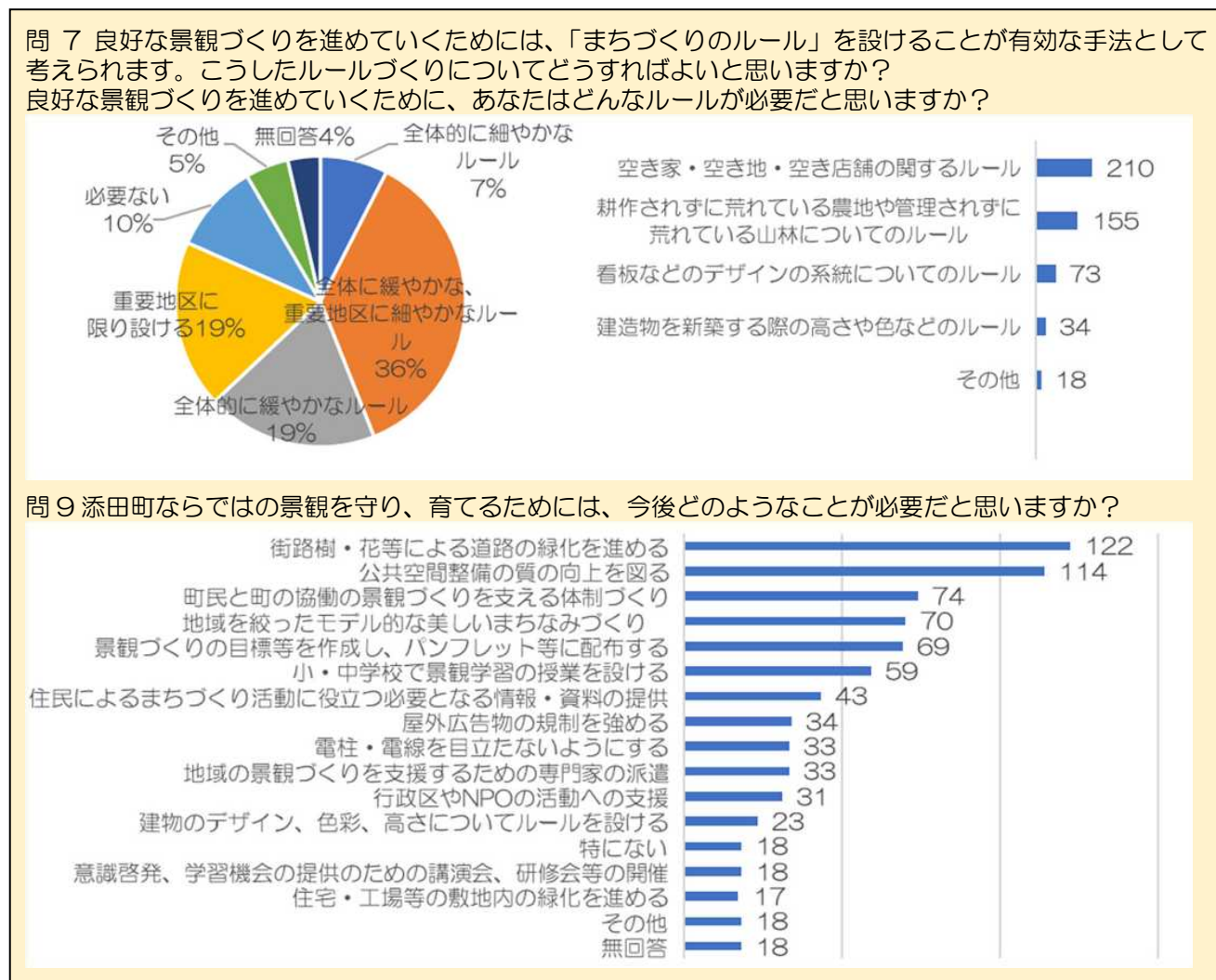


○景観づくりのルールに関して（問 7）

景観づくりのルールについては、「全体的に緩やかなルールを設け、重要な地区についてきめ細やかなルールを設けた方がよい」が 36%で最も多く、回答者の 85%が何らかのルールを設けた方がよいと答えています。また必要なルールとしては、空き家・空き地・空き店舗に関するルールと、耕作放棄地や荒れた山林に関するルールの 2つが多く選択されています。

○景観づくりの取り組みに関して（問 9）

添田町らしい景観を守り育てるために必要なことについては、道路の緑化や公共施設の質の向上といった身近な公共空間の整備に多くの回答がありました。また、町民と町の協働の景観づくりを支える体制づくり、モデル景観づくりのパンフレット配布や子どもへの景観学習など、町民全体が景観を意識して行動することの重要性を支持しています。



○自由意見

空き家・空き店舗・耕作放棄地の扱い方や管理方法、道路の雑草やゴミのポイ捨てなどの維持管理について、問題意識が強いことが分かりました。前者については、行政主導による適切な管理や、利活用への支援が求められており、カフェや宿泊施設、芸術活動の場などのアイデアが出ていました。後者については、行政だけでなく、住民全体の意識向上や景観づくりへの参加が重要だというご意見が多く寄せられました。

景観づくりの方針としては、添田町の自然と歴史を核とした景観づくりを望まれているようです。英彦山をはじめとする山々の本来の美しさ・魅力を引き出し、町部は中島家住宅を中心に歩いて散策できるまちなみづくりと、駅周辺の賑わい創出が求められています。景観計画が中途半端に終わることを懸念されているご意見も多く、重点地域を設定し、メリハリのある景観づくりが求められています。